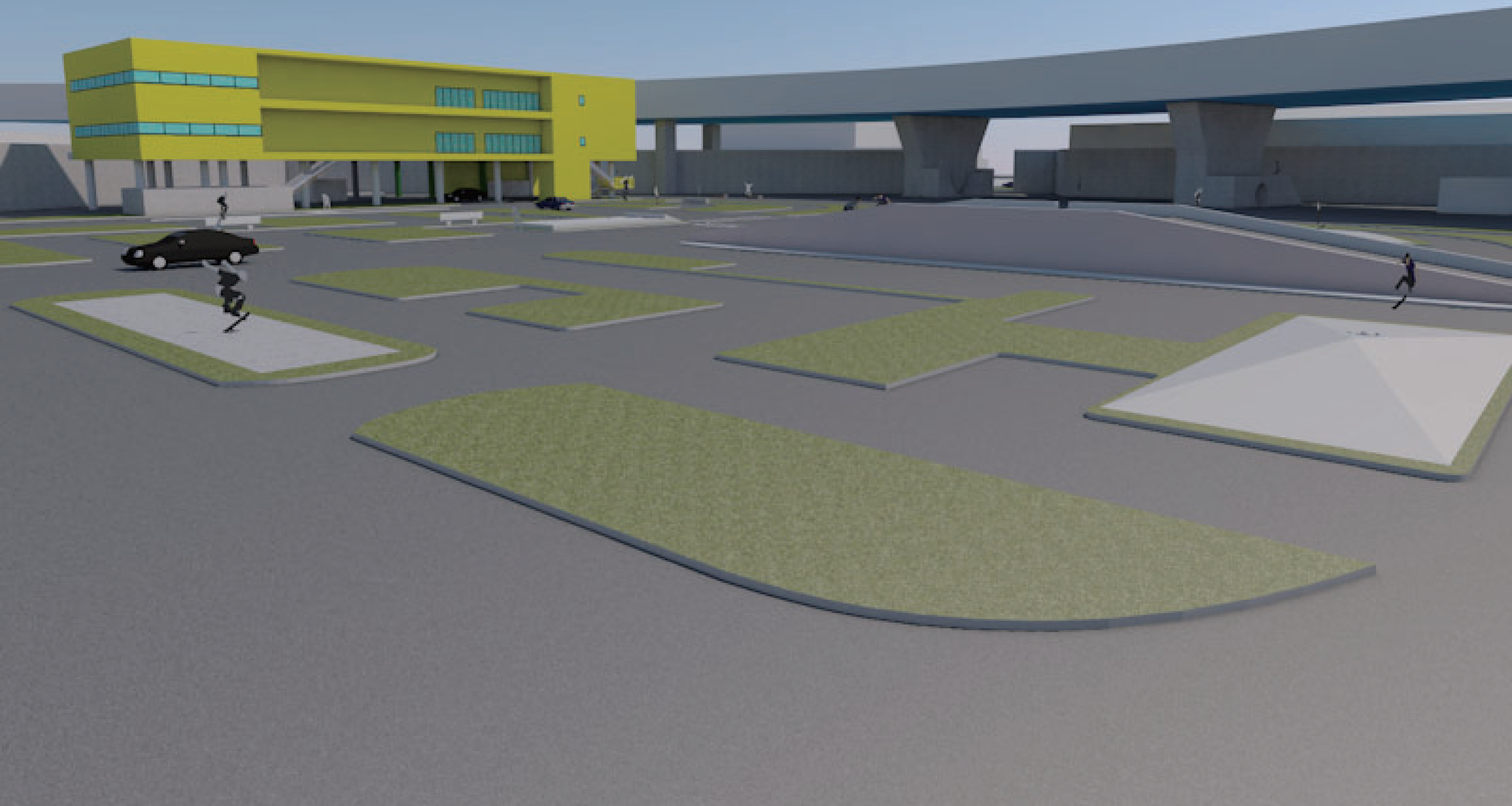


# スケートボードタウン

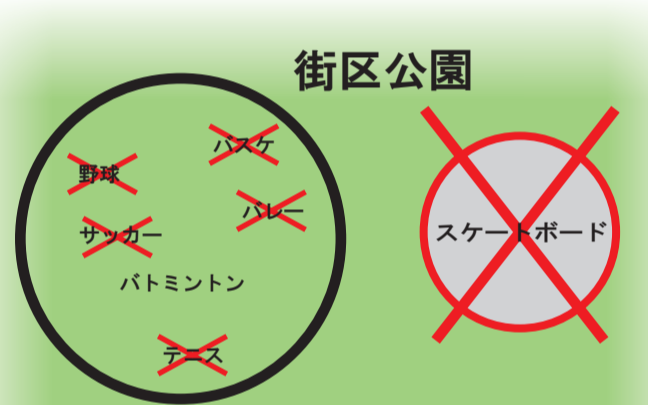
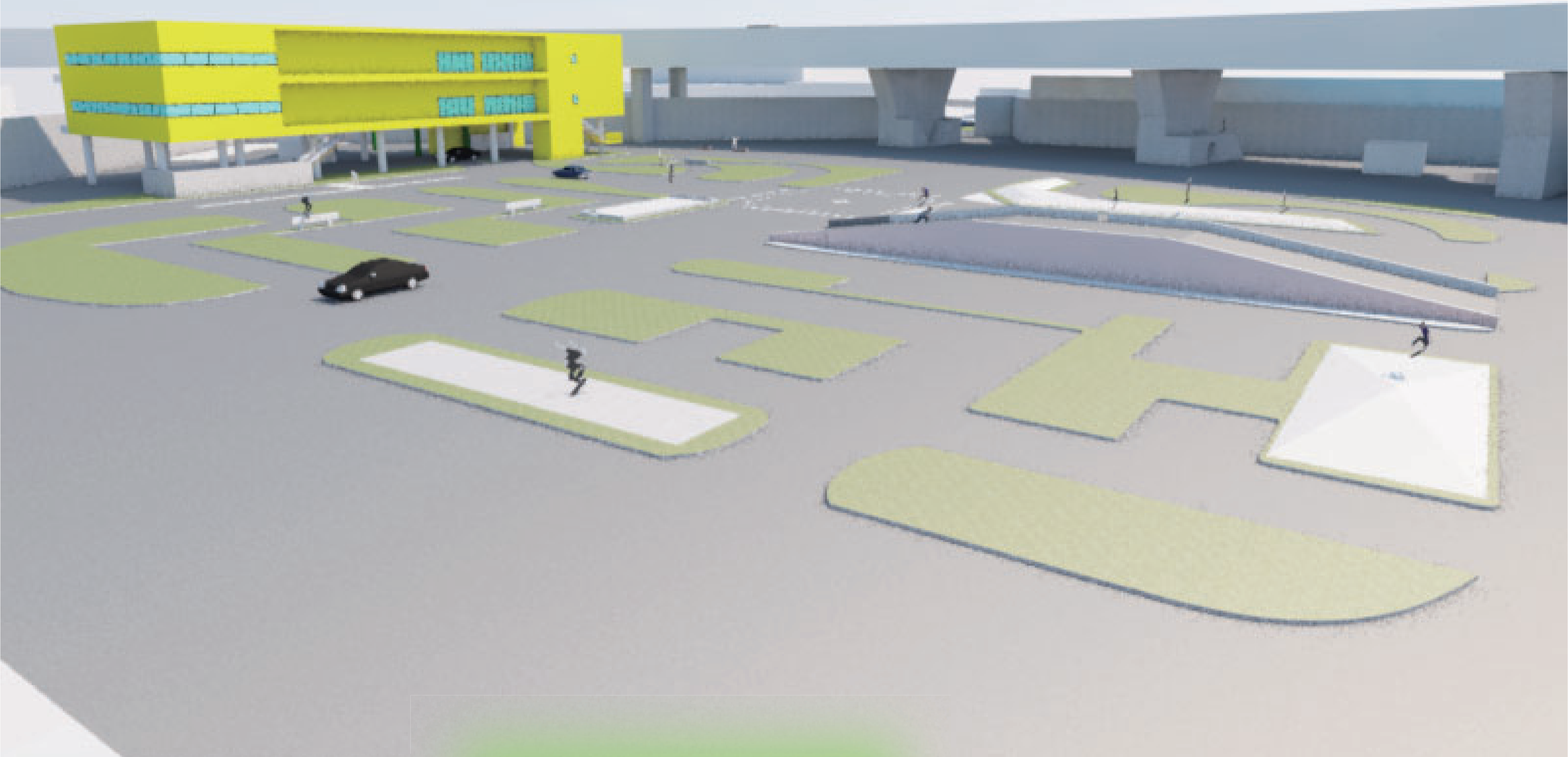
自由なスケートパーク



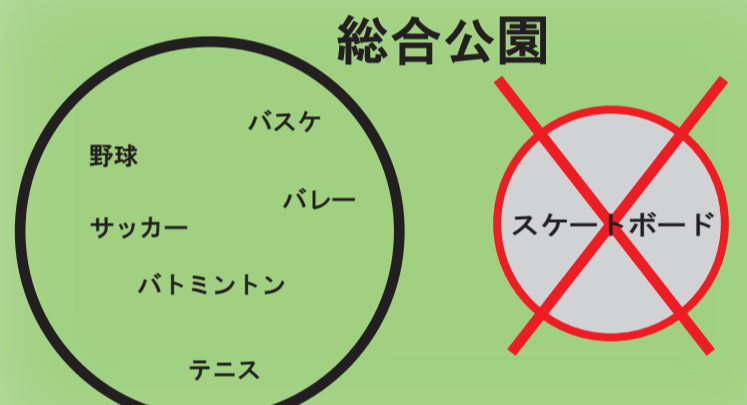


# スケートボードタウン

自由なスケートパーク

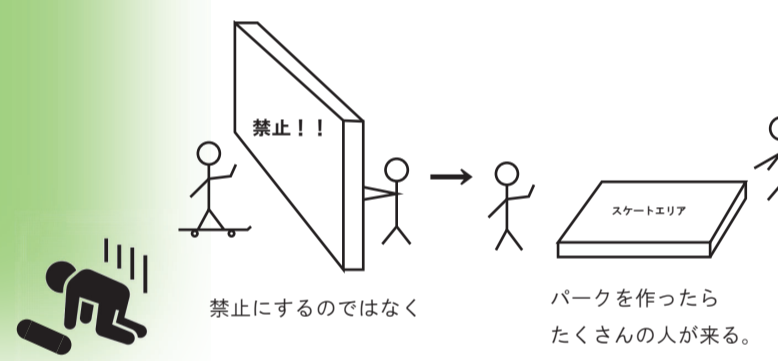


今は昔に比べて、ボールを使っていい公園が減っている。  
街区公園はほとんどボール遊びできない。  
もちろん、スケートボードもできない。



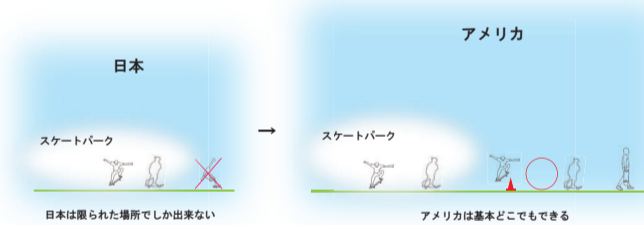
総合公園はボール遊びができるが  
スケートボードは騒音や危険などでできない。

長居公園の考え



禁止にするのではなく

パークを作ったら  
たくさんの人に来る。



敷地を決めるときに公園の中にスケートパークを作るのは普通だと思ったのでありそうでないようなとこ・建物としても珍しくスケートボーダーにとっても喜び気持ちよく練習できるような施設へと目指そうと思いました。その結果スケートボードタウンを考えました。スケートボーダーはよく街中でストリート撮影など行ったり練習している人もいますし他の人もしたいとは思っています。アメリカのような滑りをしたく、そして街中は路面がいい、明るい、階段やスロープがあるなど環境も整っていてスケートボーダーはさらに食いつきます。日本人も堂々とアメリカのような街中でスケートボードができるのを羨ましがっているといます。なので僕は街中で思いっきり気持ちよく滑れるようなスケートパークへと考えました。



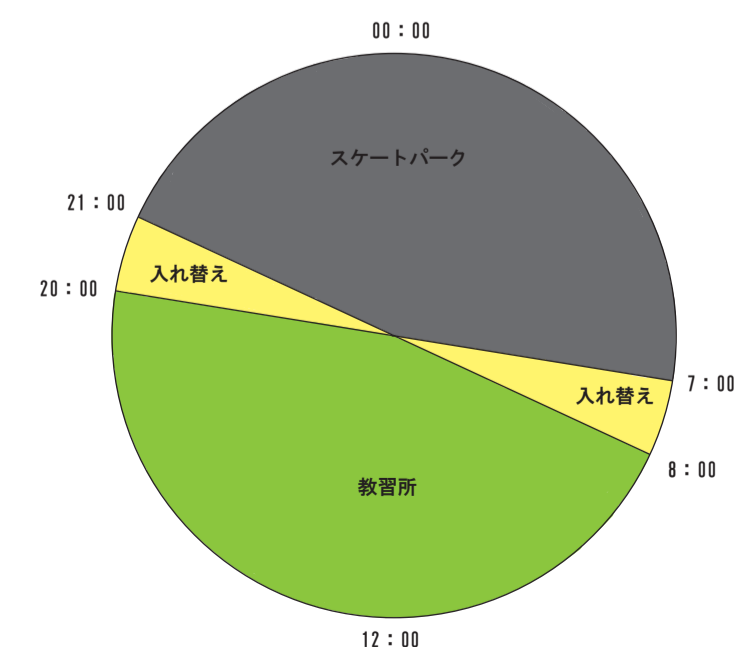
計画地は堺ドライブスクール

大阪府堺市堺区神南辺町 4 丁 124-1

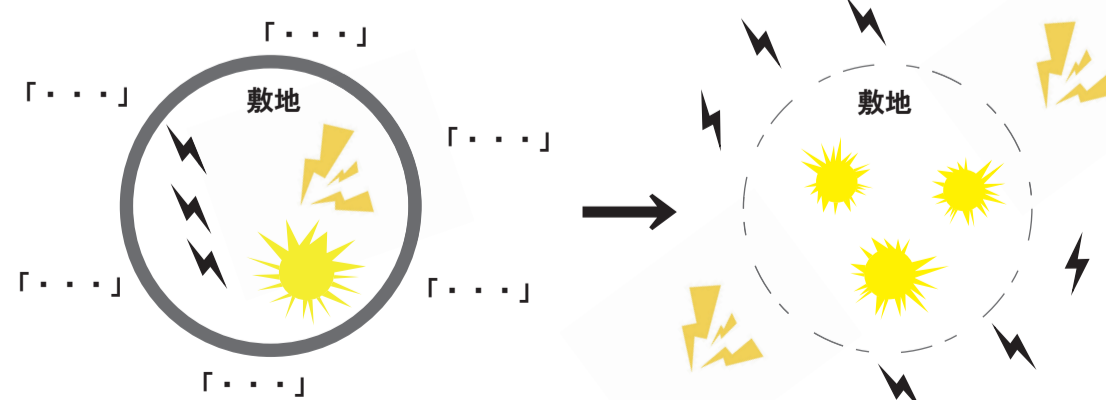
敷地面積=15256 m<sup>2</sup>  
建築面積=815 m<sup>2</sup>

用途地域 工業専用地域  
建蔽率 60%  
容積率 200%

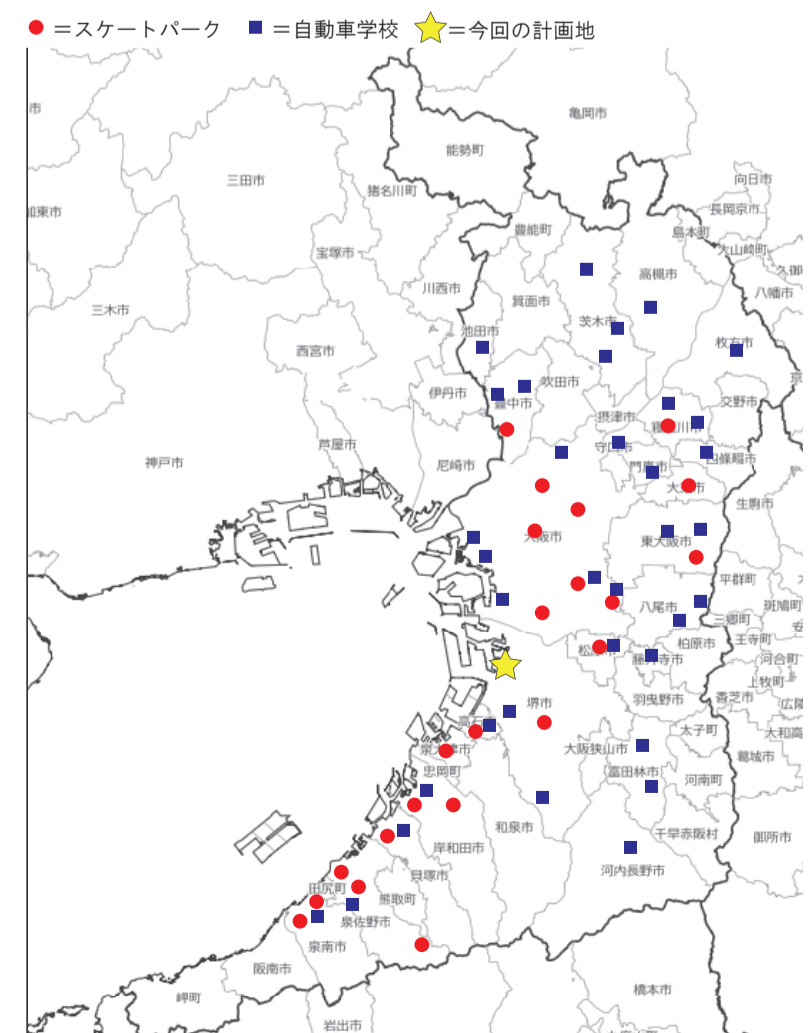
なぜここにしたかというと教習内はいわば小さい町のように広い、そして坂があったり階段などをつけたり花壇をつけたりすると、撮影とかもオシャレにも繋がる。そしてこの敷地内なら移動などは滑ってよいという夢の世界テーマパークみたいなイメージをしています。そして最大の理由が二つあります。



朝から夜は教習所として夜中から朝方はスケートパークとなる

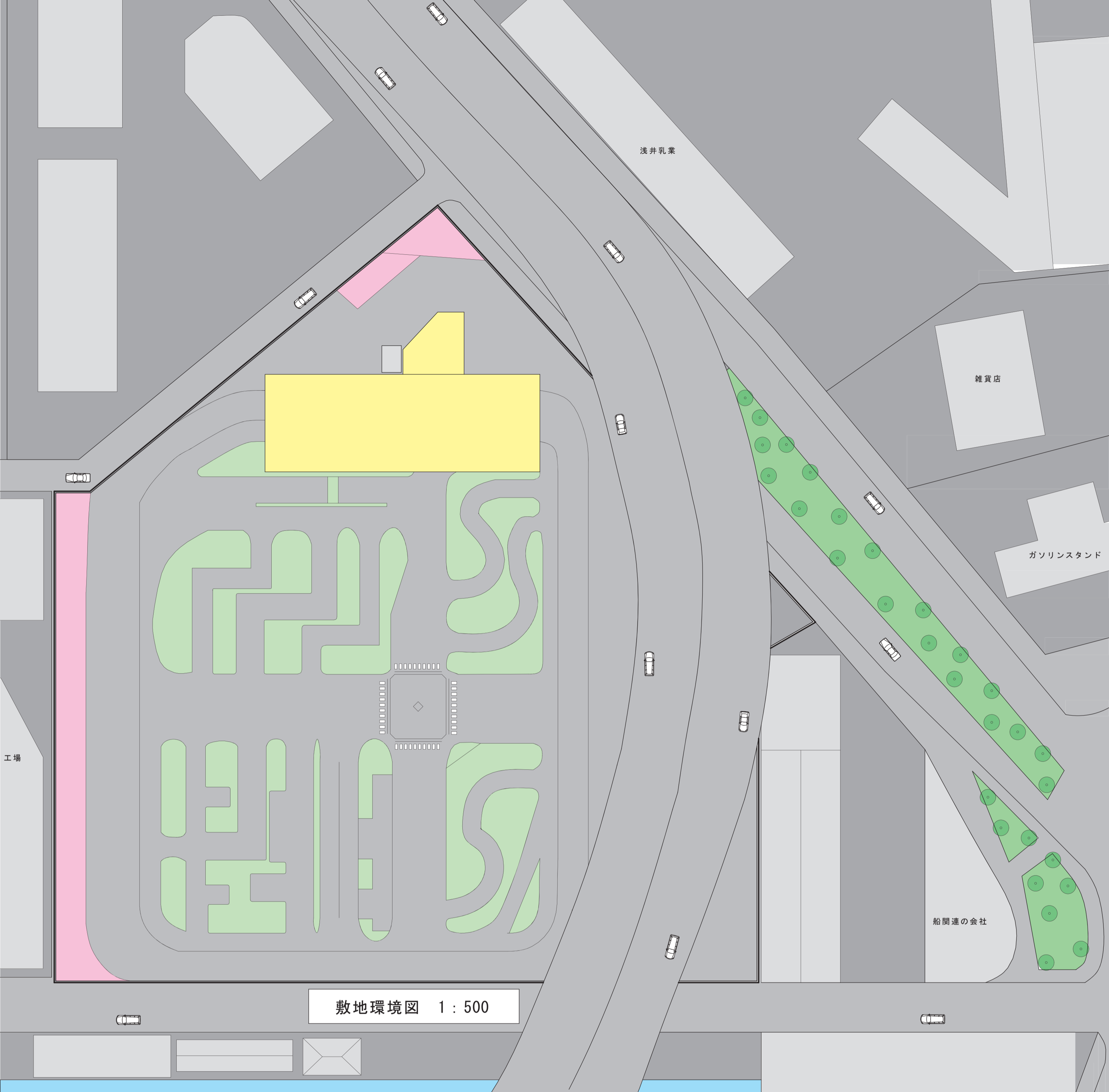


周りも音が大いいため、騒音問題は大丈夫。



大阪府全体から見た時の場所。堺市の海沿い(西側)がないことがわかる。





敷地環境図 1 : 500



空いているスペース

柱の下が少し暗い

敷地内の校舎下の道路

敷地の前面道路

夜の敷地内  
明かりが目立つ

- 敷地環境
- ・所内が明るい(照明などで)
  - ・海に近いので風が来る。
  - ・夜も多いが昼も車通りが多い。
  - ・敷地の周りの大通りは明るい。
  - ・人通りも昼も夜もいる。
  - ・大きいトラックが良く通る。
  - ・敷地内の柱のところがスペース空いてたりしていた。
  - ・少し北東の横断歩道を渡ったら住宅エリアがあった。
  - ・歩行者と自転車は少し少ない
  - ・敷地の南の道路は夜になるとあまり街灯がない。
  - ・敷地の西側のところは建設中の工場?でした。

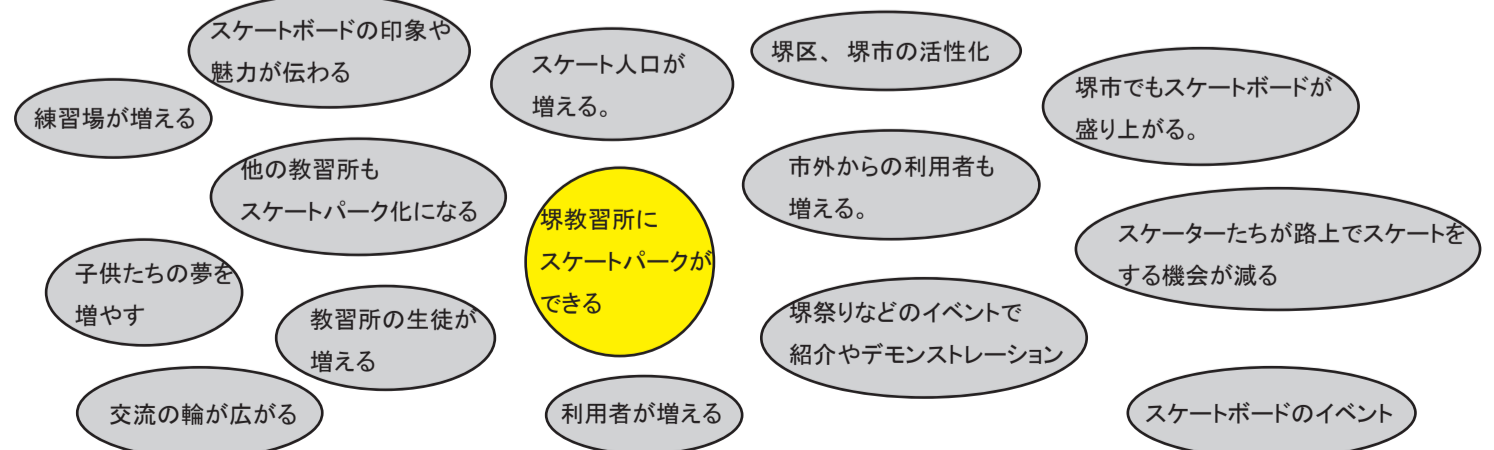
**堺区の特徴**  
市の中心エリアである立地なので、図書館などの公的施設、博物館などの文化施設も区内にまとまっており、教育面でのメリットが多いのも魅力的。さらに昔ながらの商店街や住宅街があり、歴史的な遺産や遺構が数多く点在する環境から地域のつながりもある。

**堺区の歴史**  
1880年(明治13年)、郡区町村編制法施行により堺町(堺県和泉国第1大区)が堺区(郡区制)となった。その際、沿岸部に形成されていた附洲(つぎす)新田も堺区(郡区制)に組み込まれた。1889年(明治22年)、市制施行により堺区(郡区制)が堺市となった。2006年(平成18年)、堺市が政令指定都市へ移行したことにより、行政区としてはあるが「堺区」の区名が117年ぶりに復活した。



第50回目 2023年度 堺祭り

目的



堺区は市の中心部なので様々な施設があるが最近話題のスケートボードができる施設を作ることによって堺市の人たちが注目し、市外からも注目され、スケート人口が増える。

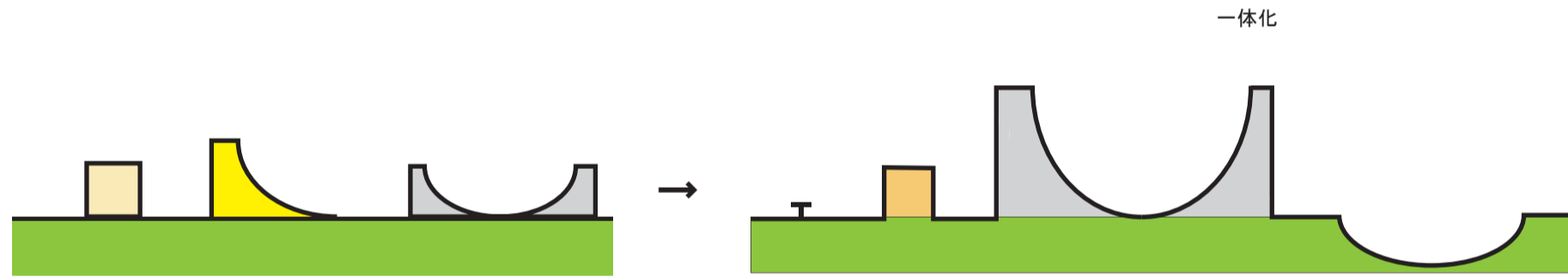


スケートボード セクション紹介

<p>ランプ 大きさはそれぞれあり、事例で大泉緑地なら高さ 1.5m</p>	<p>クォーター 大きさはそれぞれ。 (例)高さ 1.5m 幅 2.5m</p>	<p>ピラミッド 4方向をバンクで囲んだピラミッドのような形のセクション。 様々な角度から入れる。</p>	<p>スラッピー 低い縁石などでオーリー(ジャンプ)しないでスケートボードのトラック(金具)でスライドする技。高さ 10cm 以下</p>
<p>ウォールライド 壁を走行するトリック。高さは 2m 以上</p>	<p>マニュアル台 ボックスよりも低く、大きい。高さは 10cm ほど</p>	<p>ボックス 高さはそれぞれあり、15cm ~ 40cm 長さは 1m ほど</p>	<p>レール 高さや長さは様々。 (例)高さ 30cm 長さ 1 ~ 3m</p>
<p>バンク 坂のように傾斜した形。勢いよく滑り上りオーリー(ジャンプ)して飛び越えたりする。大きさや傾斜の角度はそれぞれ。</p>	<p>ステア(階段) 蹴上と踏面には規定がない。 助走をつけるために 10m ほど必要</p>	<p>ボウル 深さ 1.5m ~ 2m ほどある。大きさや深さはそれぞれある。</p>	<p>パイプ トンネルのような空間のセクション 日本にはほとんどなく、海外に多く見られる。直径 2m ほど</p>

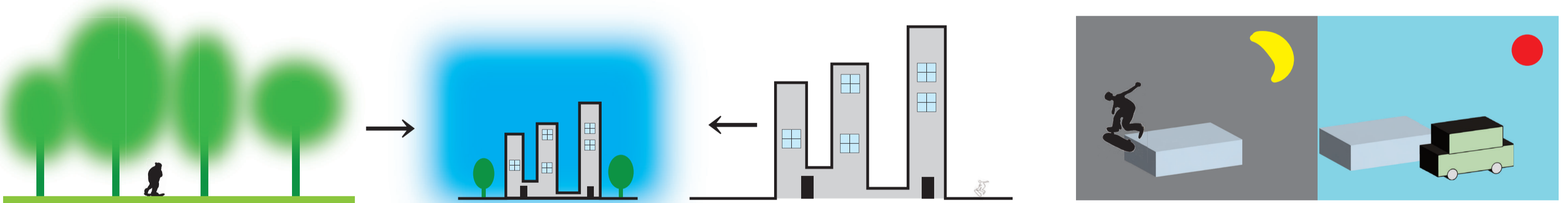
計画

計画としては教習所の原型を残すという風に考えた。  
パッと見た感じだとスケートパークだとわかりづらいような感じに考えました。  
そして一番この計画において安全を配慮しました。スケートボーダーは  
いいかも知れないがそれを配置することでお屋、教習所として動いている教習車は  
ぶつかったり、溝に落ちたりとまだ車の練習中なので教習車にとって安全または  
そのドライバーの安全を考慮したスケートボードのセクションを配置していこうと思いました。



教習所の中にセクションを設置するのではなく、既存の建物などを残して  
教習所と一体化したスケートパーク

スケートパークの全体のイメージ



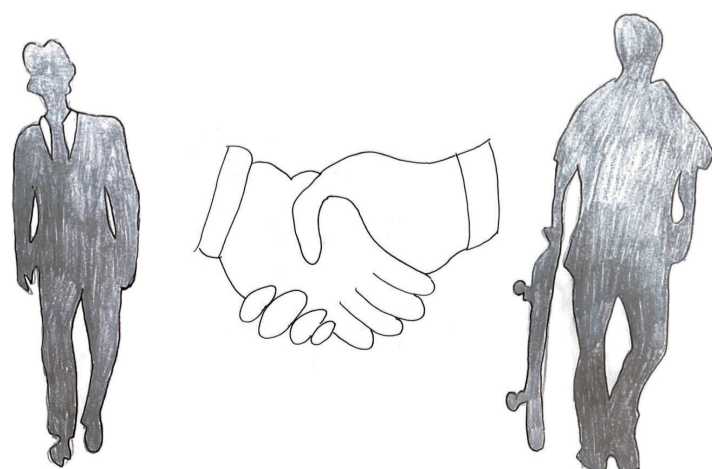
緑が目立つスケートパーク  
(例)福島県いわき市スケートパーク

緑がありつつ、街中のような  
スケートパーク

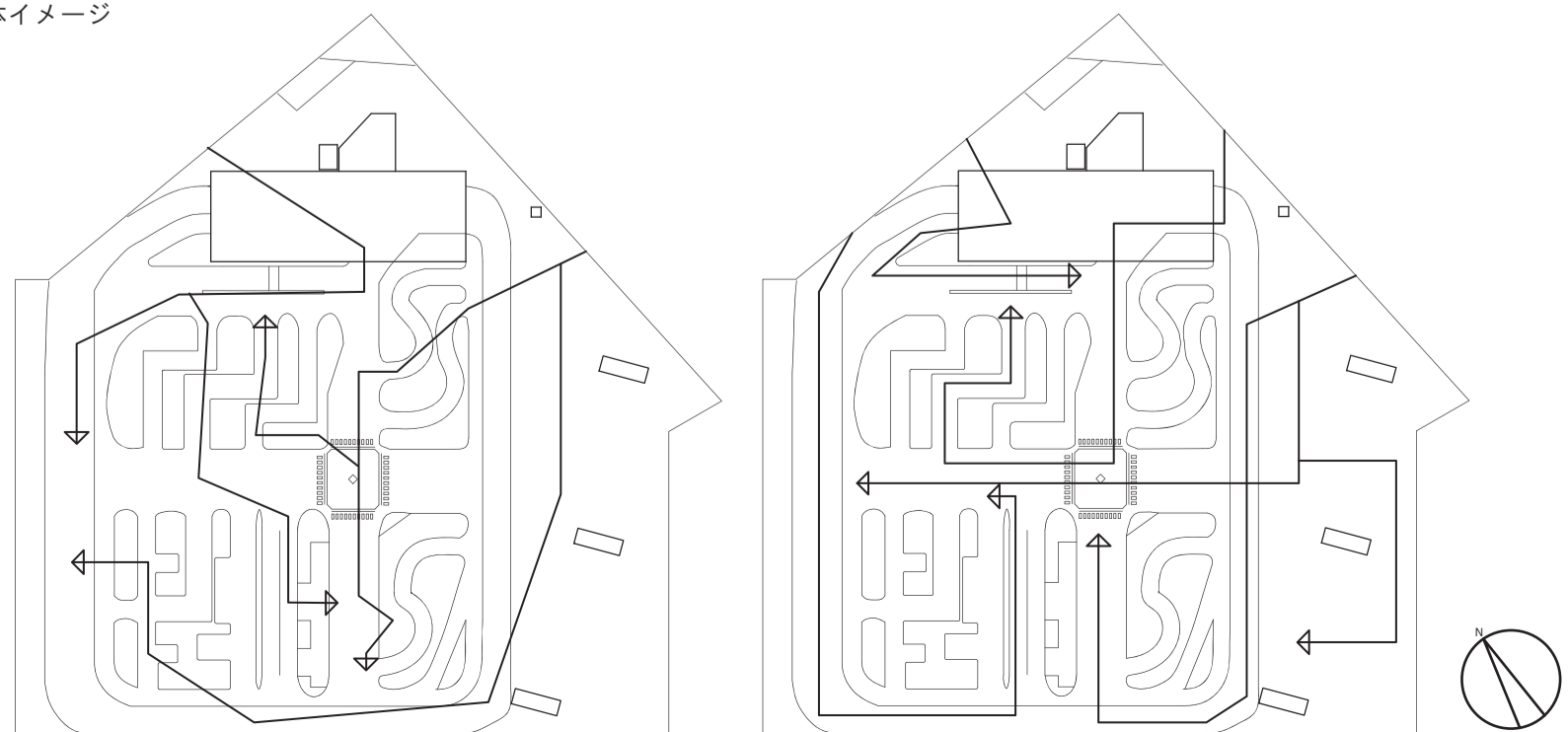
街中のようなスケートパーク  
(例)ふくい健康の森スケートパーク

ドライバー(教習車)の安全を考慮しつつ、セクションを設ける。  
優先的にはドライバーの安全。

福島県いわき市スケボーパークのような緑がありつつ、ふくい健康の森スケートパークの  
ような、町のような空間もあるような二つの間のようなスケートパークの全体イメージ



教習車とスケートボードが同じ敷地で使うのでお互い理解しあい分かち合う。



スケートボーダーの動線

教習者の動線



教習所を見て似ていたところをくっつけてみた



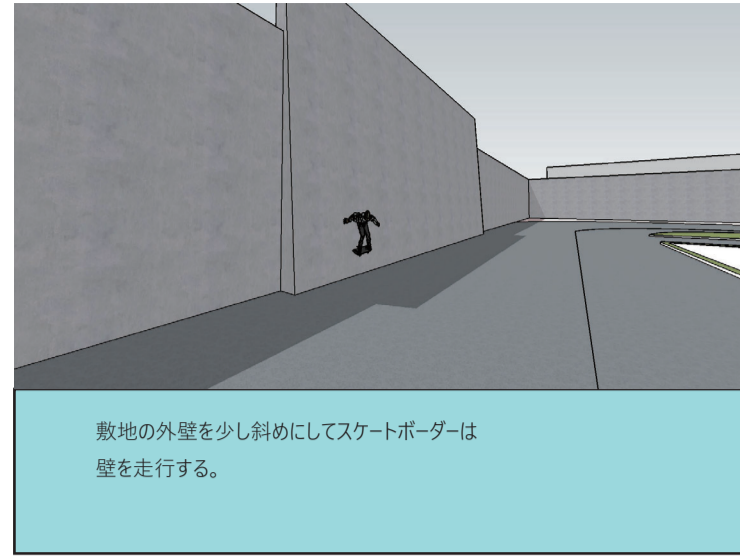
校舎の階段がステア(階段)に似ている。



校舎から所内に向かう階段を踊り場を大きくしたりする。  
生徒は階段として使い、スケートボーダーは階段を飛ばす！！



所内の敷地の外壁がウォールライドで使う壁になりそう



敷地の外壁を少し斜めにしてスケートボーダーは壁を走行する。



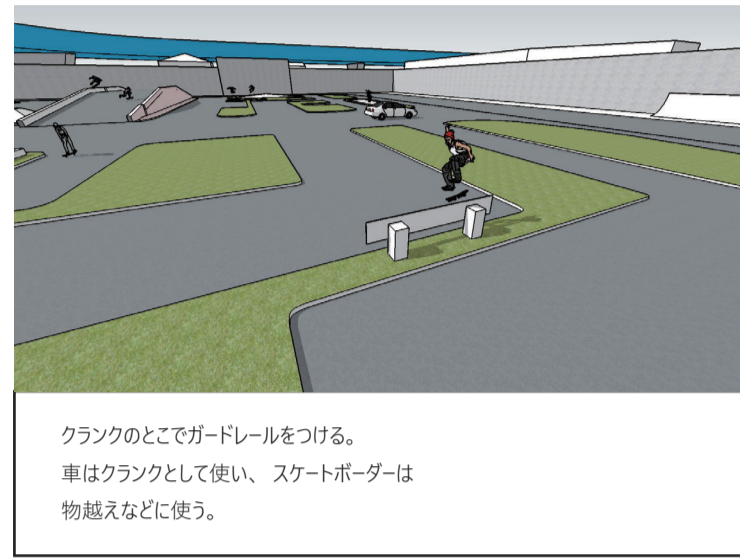
真っすぐな道路の間の緑石ボックスになりそう



花壇を設置して所内は少し緑が生え、スケートボーダーはボックスとして使う。



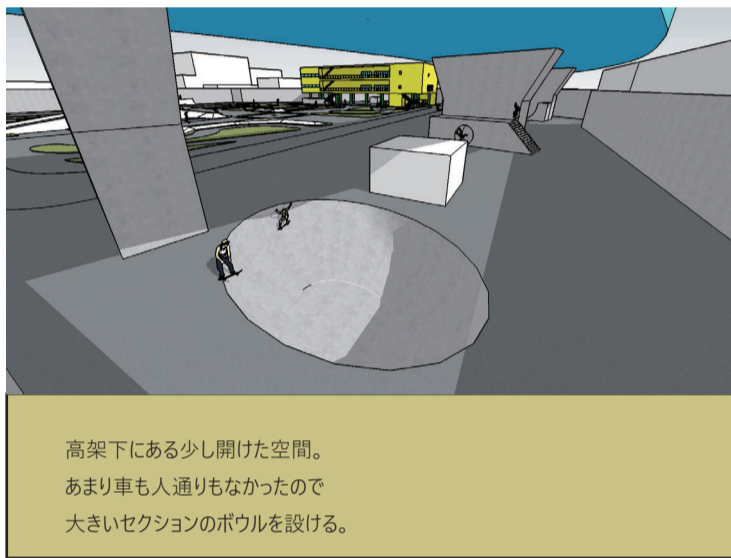
クランクを飛び越えるようなセクション設けれそう



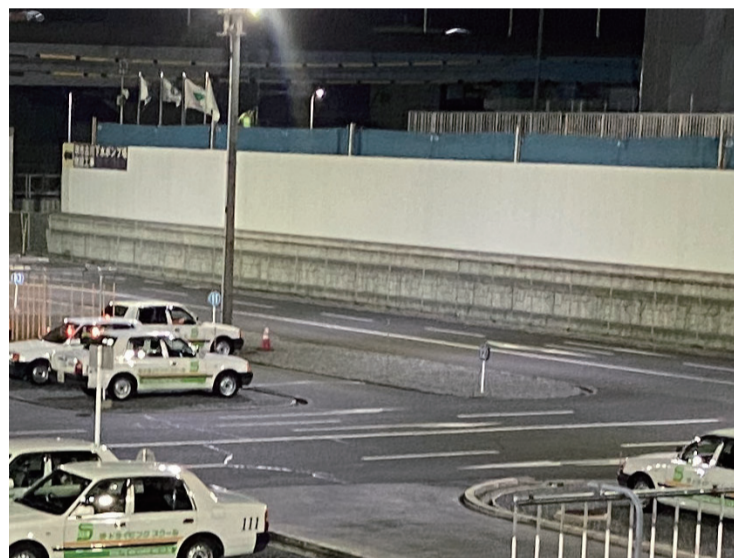
クランクのところでガードレールをつける。  
車はクランクとして使い、スケートボーダーは物越えなどに使う。



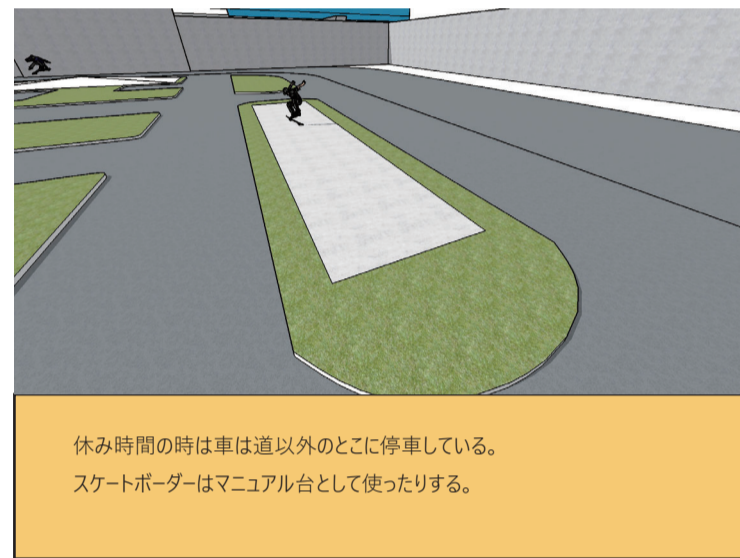
広い空間にポウルや大きいセクションを設ける。



高架下にある少し開けた空間。  
あまり車も人通りもなかったので  
大きいセクションのポウルを設ける。



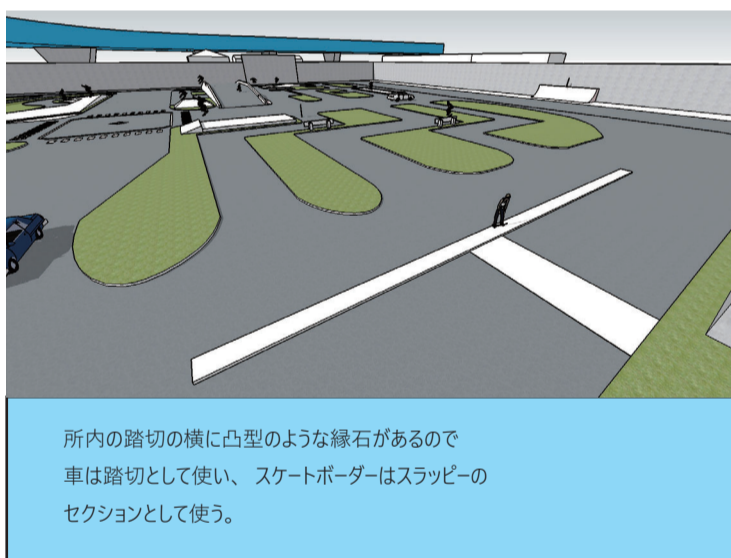
道路じゃないとこの開いてるとこの中に  
アスファルトに変えたりする。



休み時間の時は車は道以外のところに停車している。  
スケートボーダーはマニュアル台として使ったりする。



踏切のこの緑石がスラッピーに似ている。



所内の踏切の横に凸型のような緑石があるので  
車は踏切として使い、スケートボーダーはスラッピーの  
セクションとして使う。



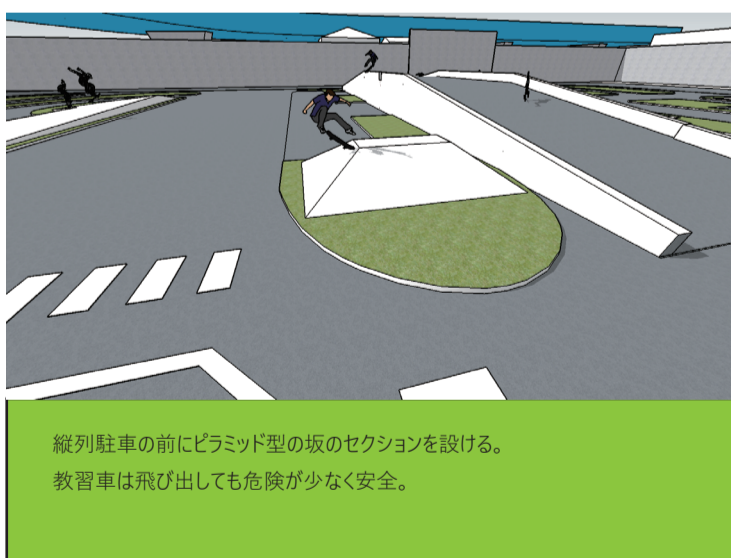
S字とS字の間に物越えを設置出来そう。



S字の道路と道路の間の細いスペースに  
物越えまたはボックスを設ける。



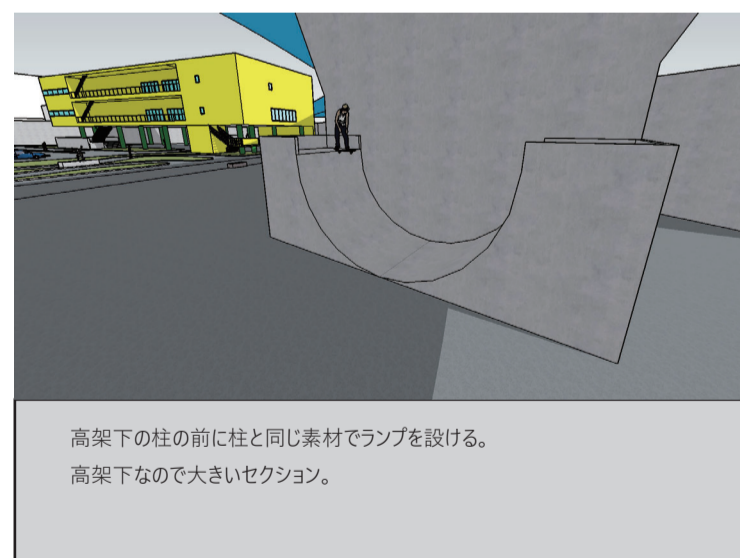
縦列駐車の前の方にピラミッド設けれそう。



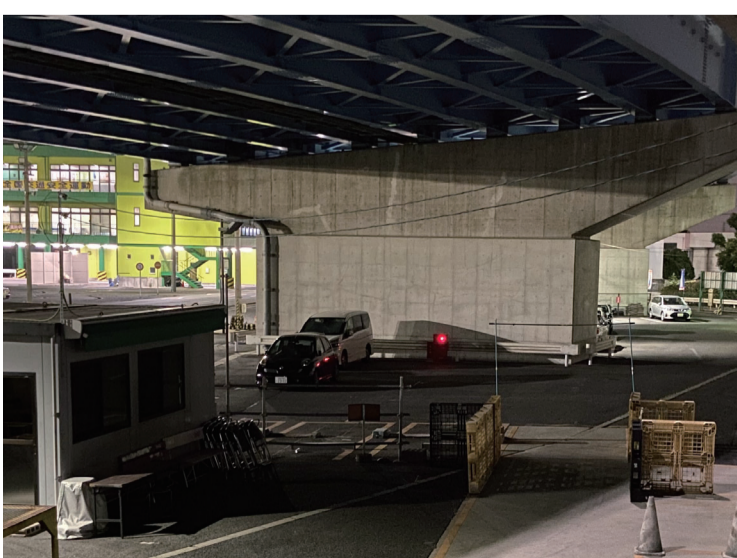
縦列駐車の前の方にピラミッド型の坂のセクションを設ける。  
教習車は飛び出しても危険が少なく安全。



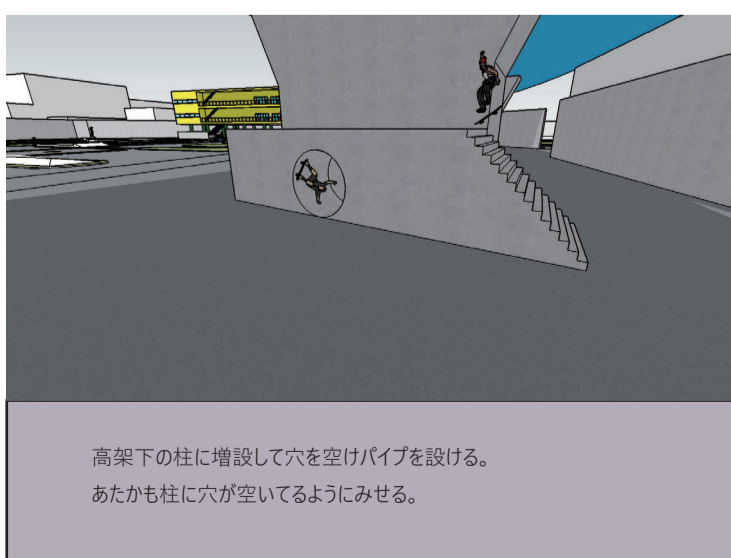
ランプはコンクリートのタイプもあるので同じ素材の  
近くに設ける。



高架下の柱の前に柱と同じ素材でランプを設ける。  
高架下なので大きいセクション。



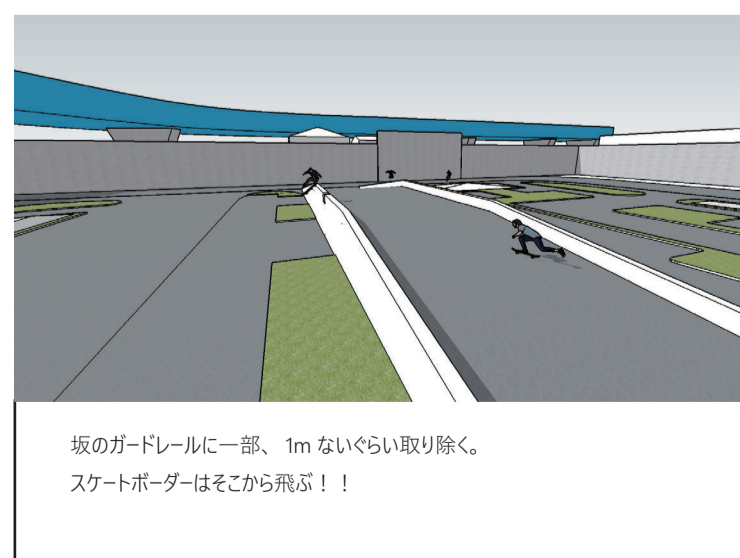
あたかも柱に穴を開けるようになって来そう



高架下の柱に増設して穴を開けパイプを設ける。  
あたかも柱に穴が開いているようにみせる。



坂道発進の山の頂上から飛んでみたい！！



坂のガードレールに一部、1mないぐらい取り除く。  
スケートボーダーはそこから飛ばす！！

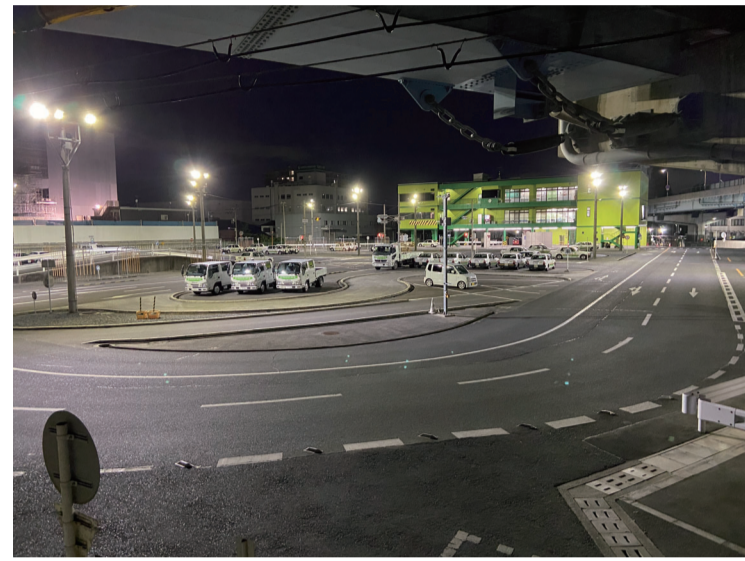




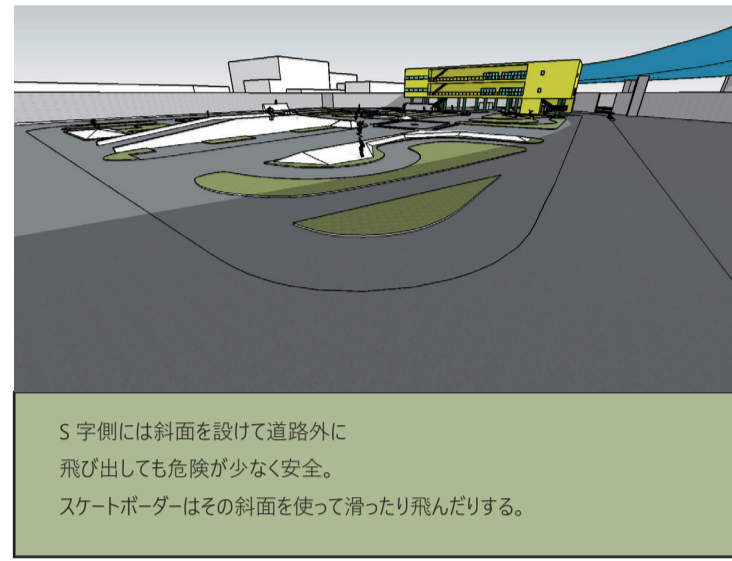
西側が外壁のところに立て長く使われていない場所がある。



敷地の西側にクォーター（坂）を設ける。  
車は真っすぐなで道路外には乗り越えにくい。  
乗り越えても坂なので安全。



S字の脇が空いているので山のような形が作れそう。



S字側には斜面を設けて道路外に  
飛び出しても危険が少なく安全。  
スケートボーダーはその斜面を使って滑ったり飛んだりする。



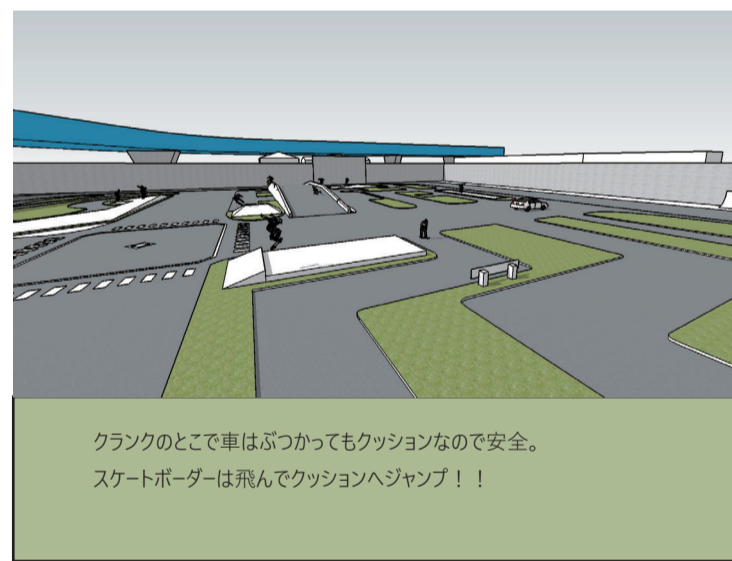
校舎の下の柱と柱に細長いのを設置できそう。



ロッカーを設けることで利用したいスケートボーダーは  
荷物をいれ安心して楽しめる。



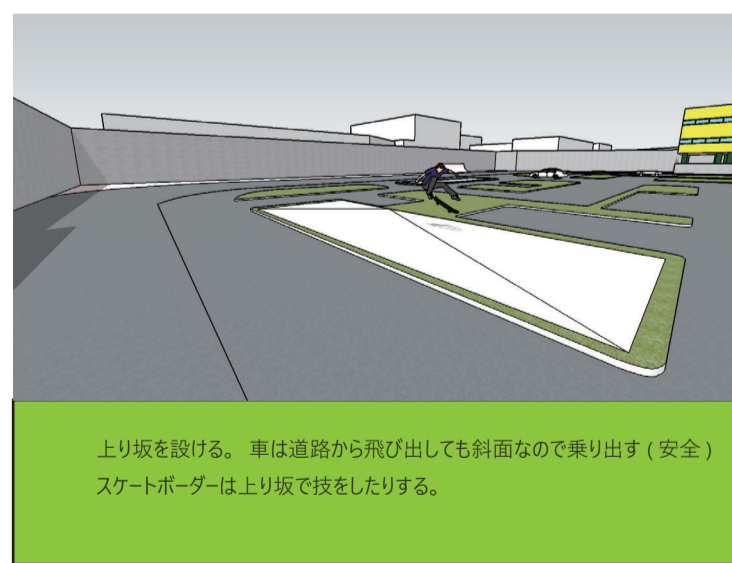
横断歩道とクラウクの間クッション（柔らかい素材）を  
置けそうだ。



クラウクのとこで車はぶつかってもクッションなので安全。  
スケートボーダーは飛んでクッションへジャンプ！！



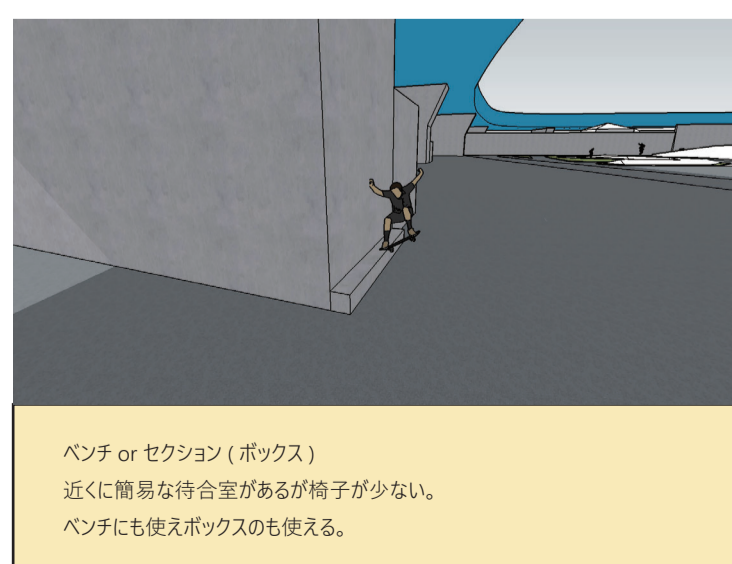
道路の間に長方形の形があったので山（ピラミッド）を  
設置出来そう。



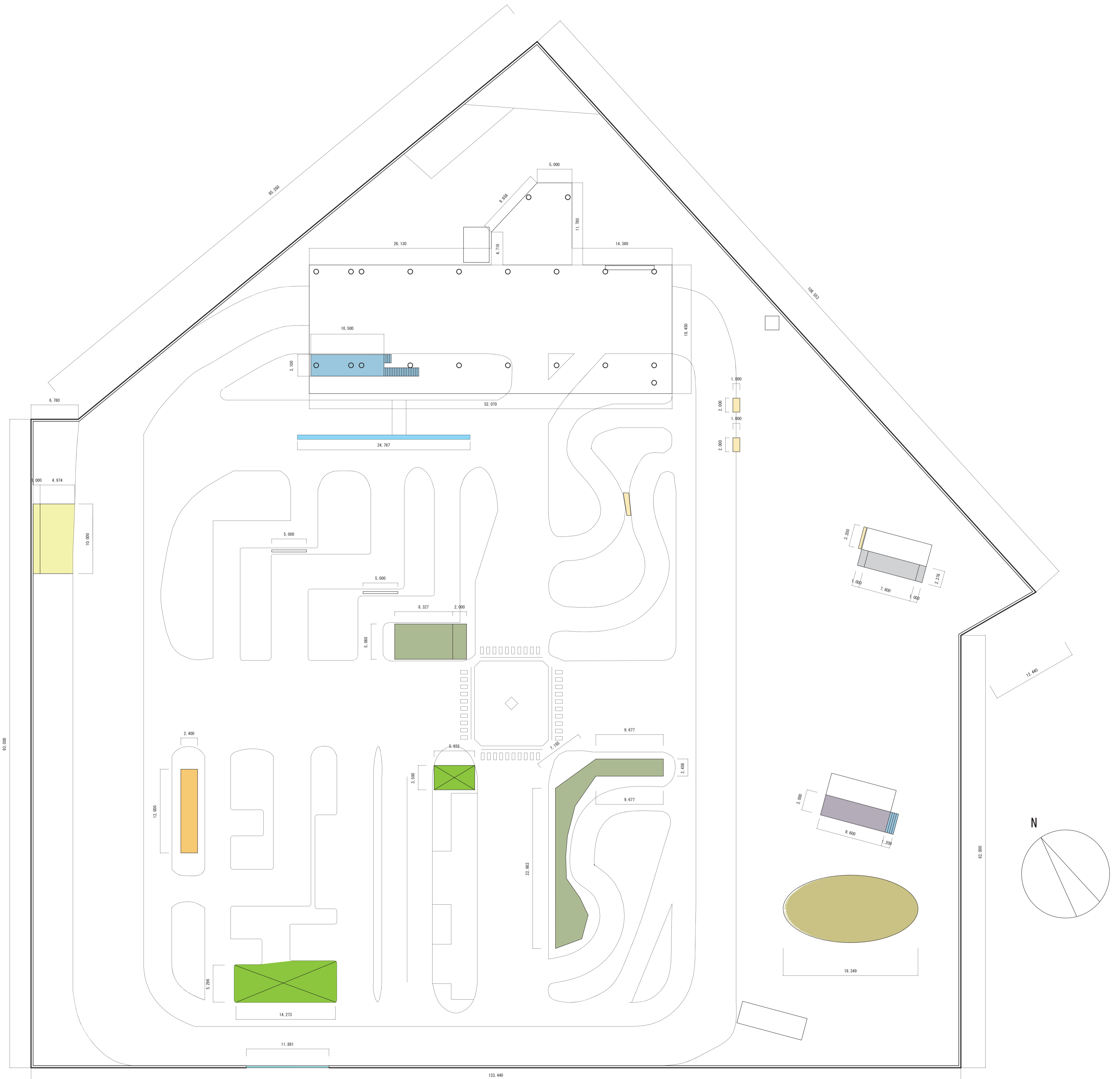
上り坂を設ける。車は道路から飛び出しても斜面なので乗り出す（安全）  
スケートボーダーは上り坂で技をしたりする。



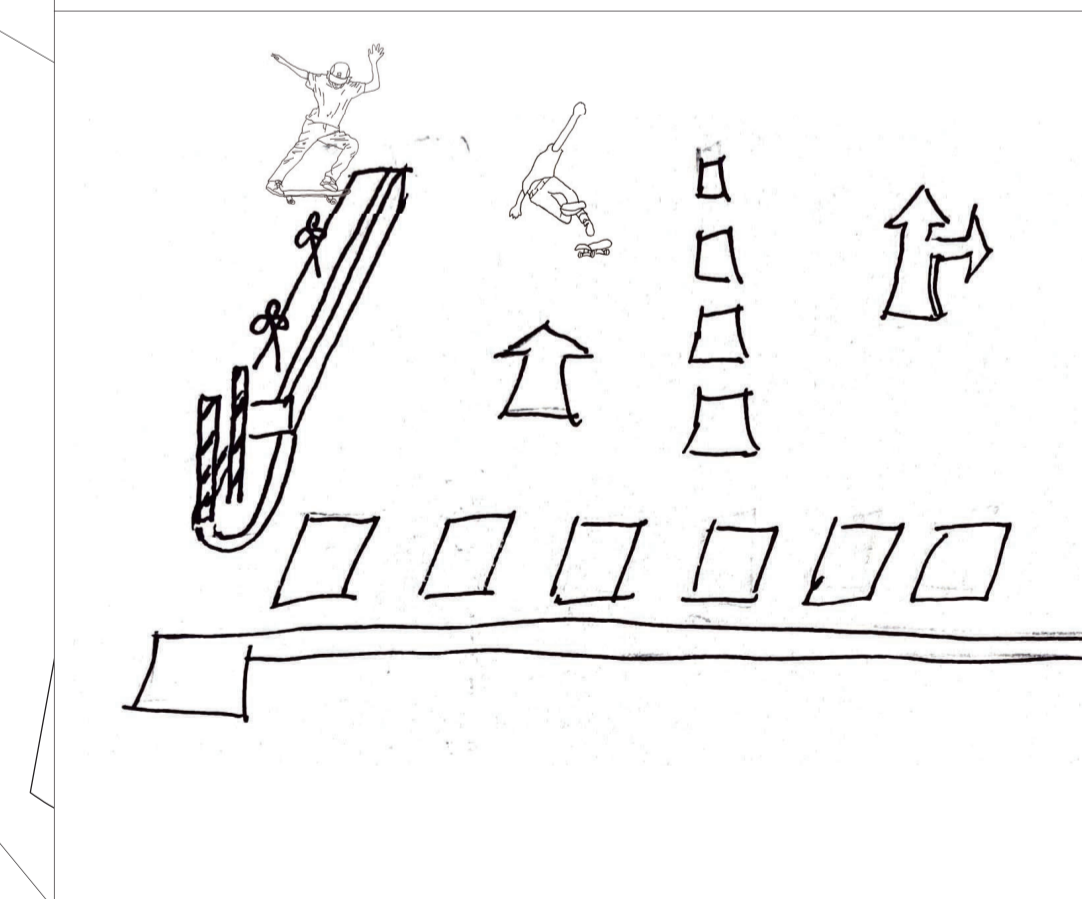
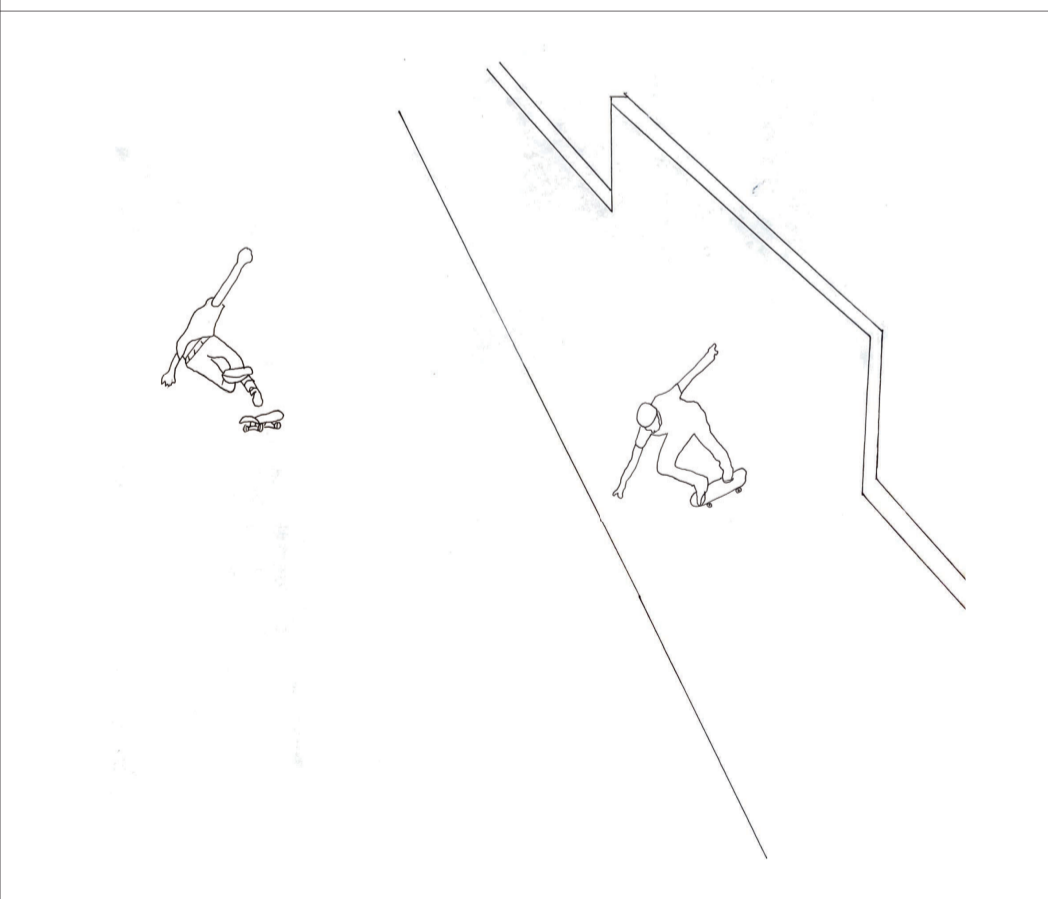
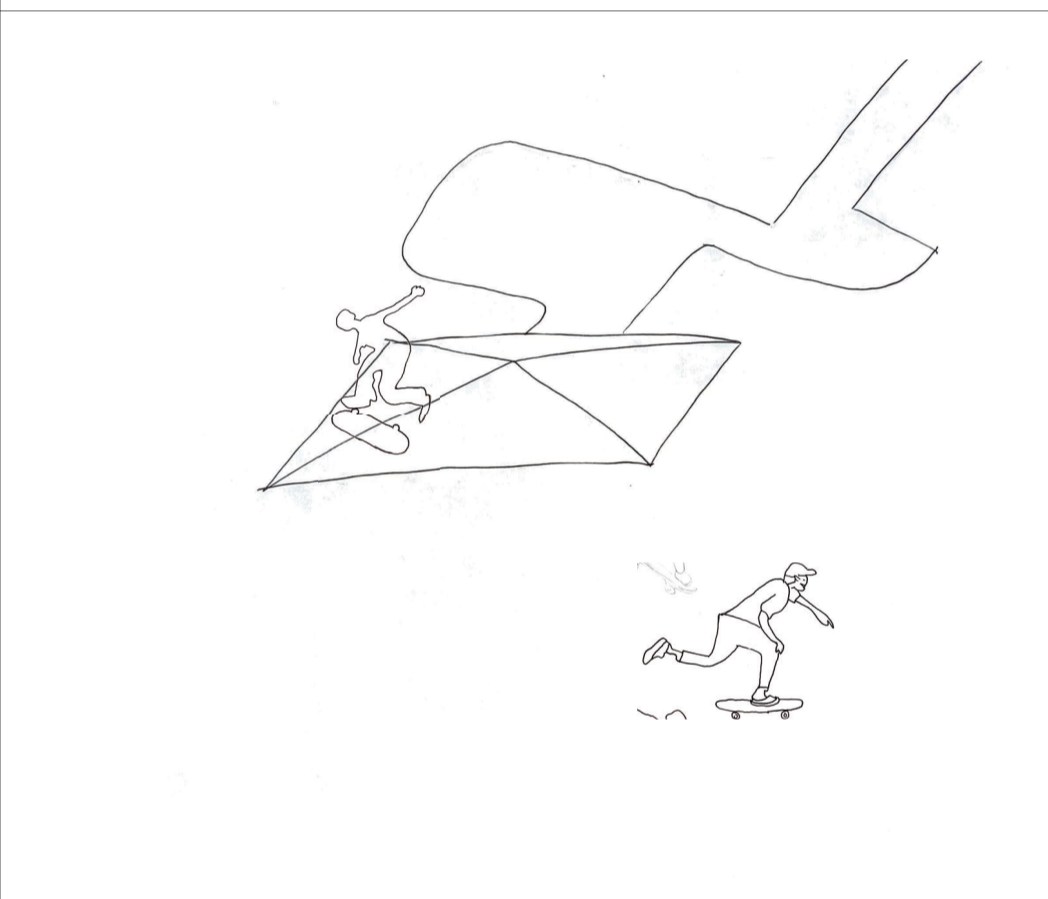
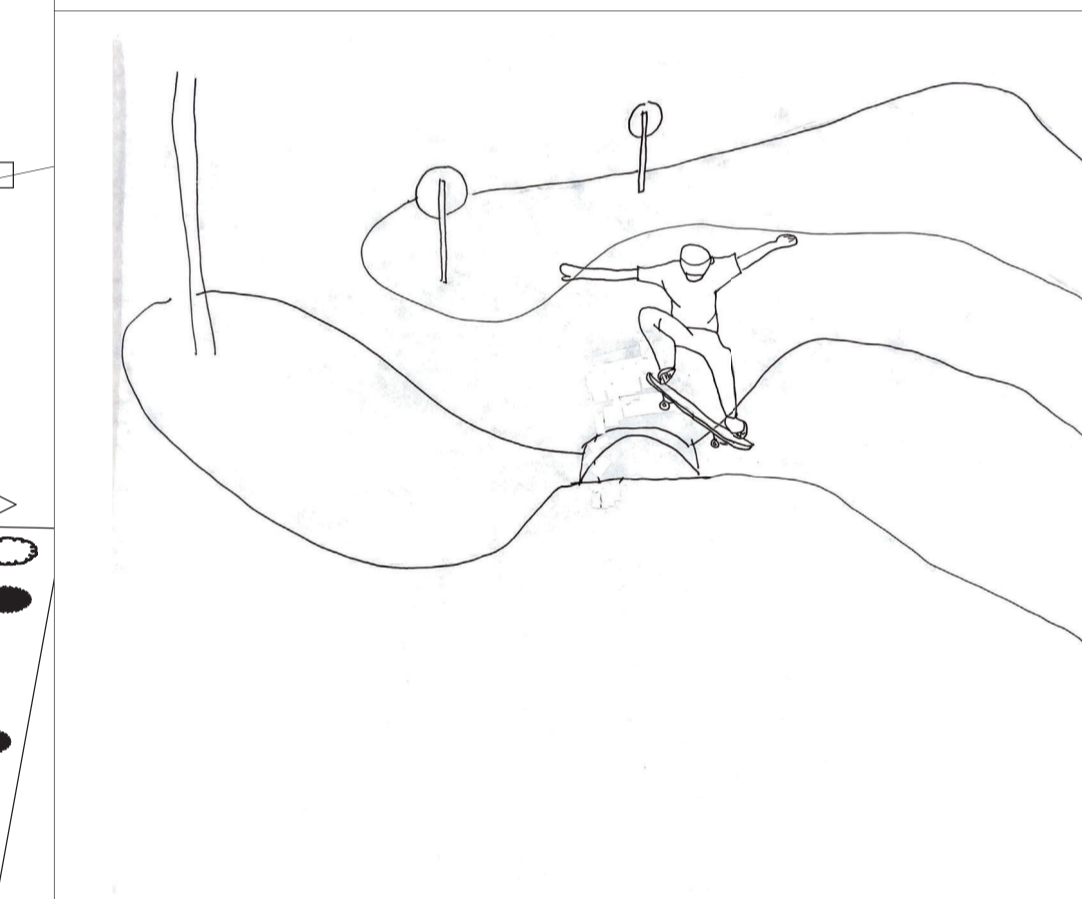
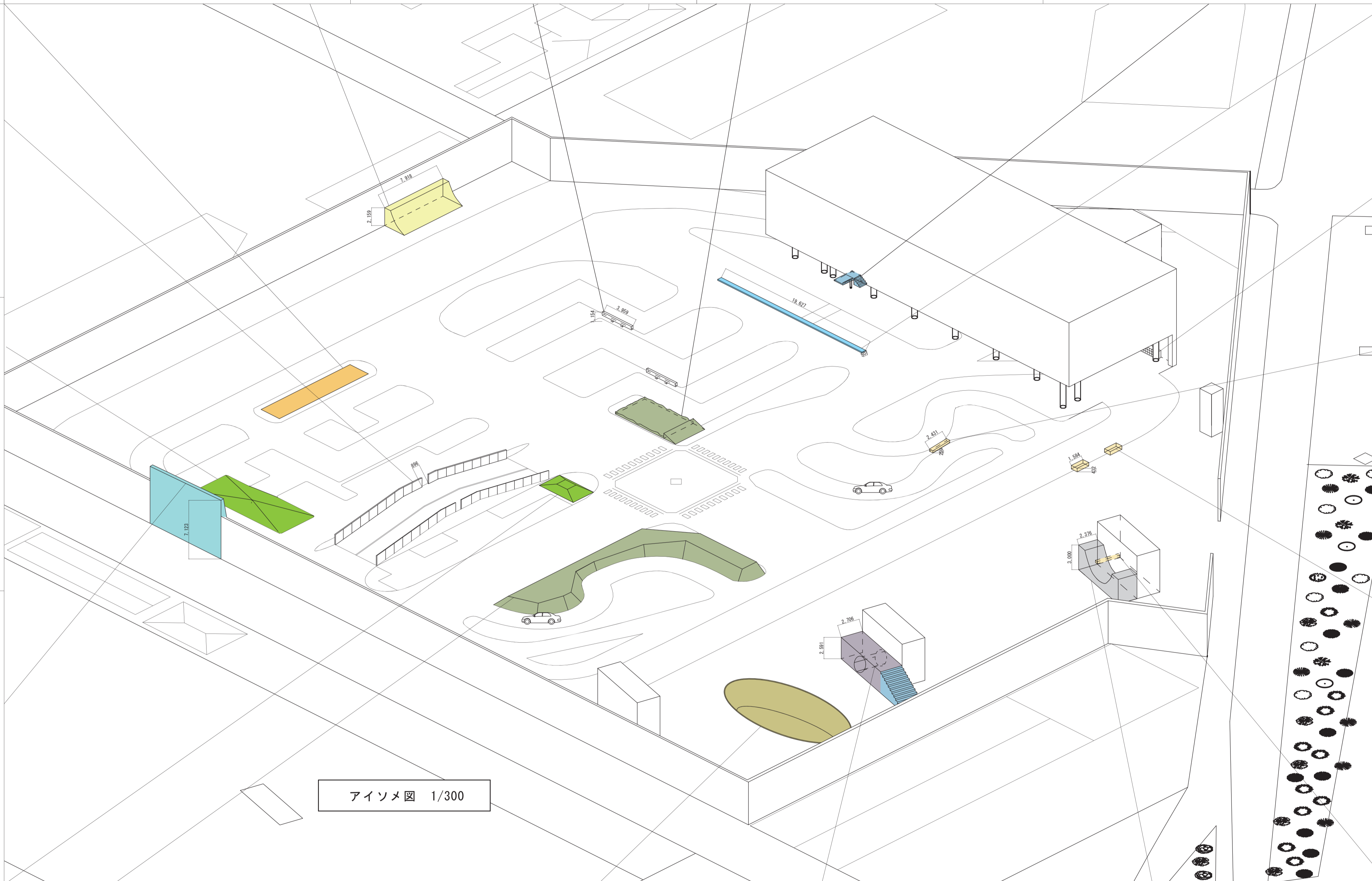
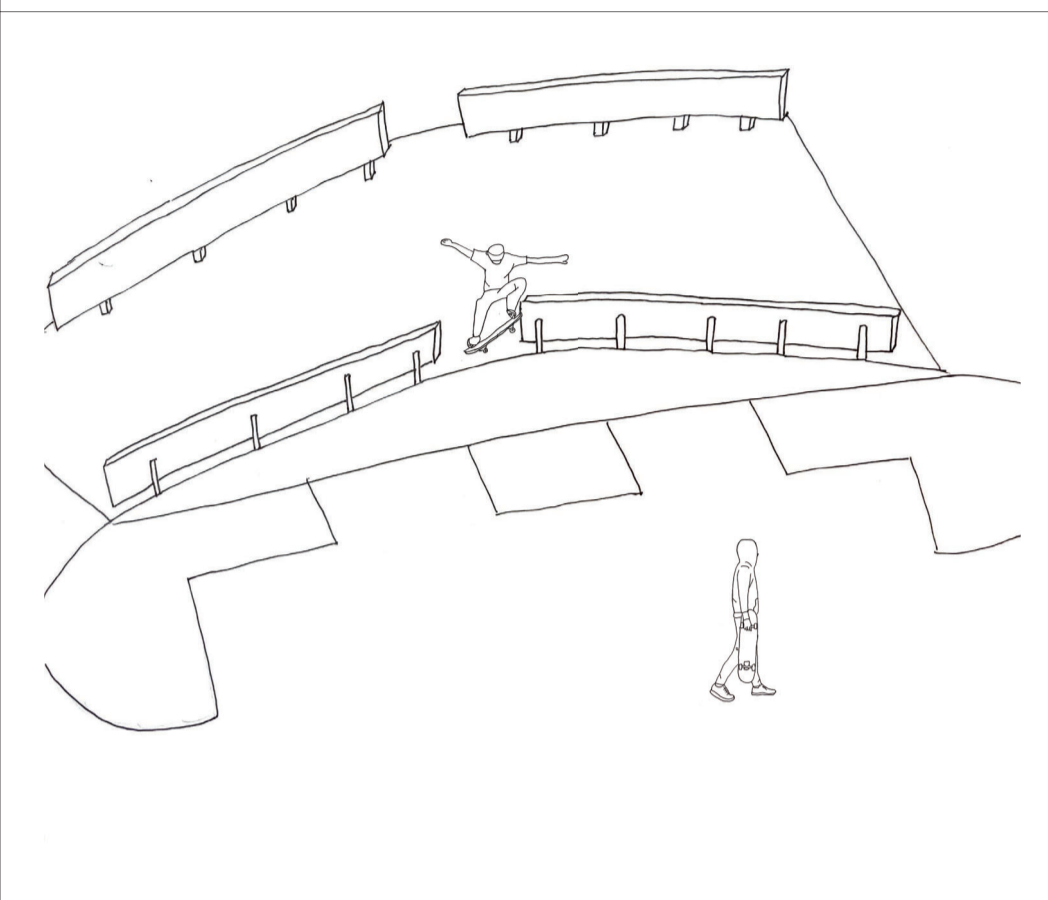
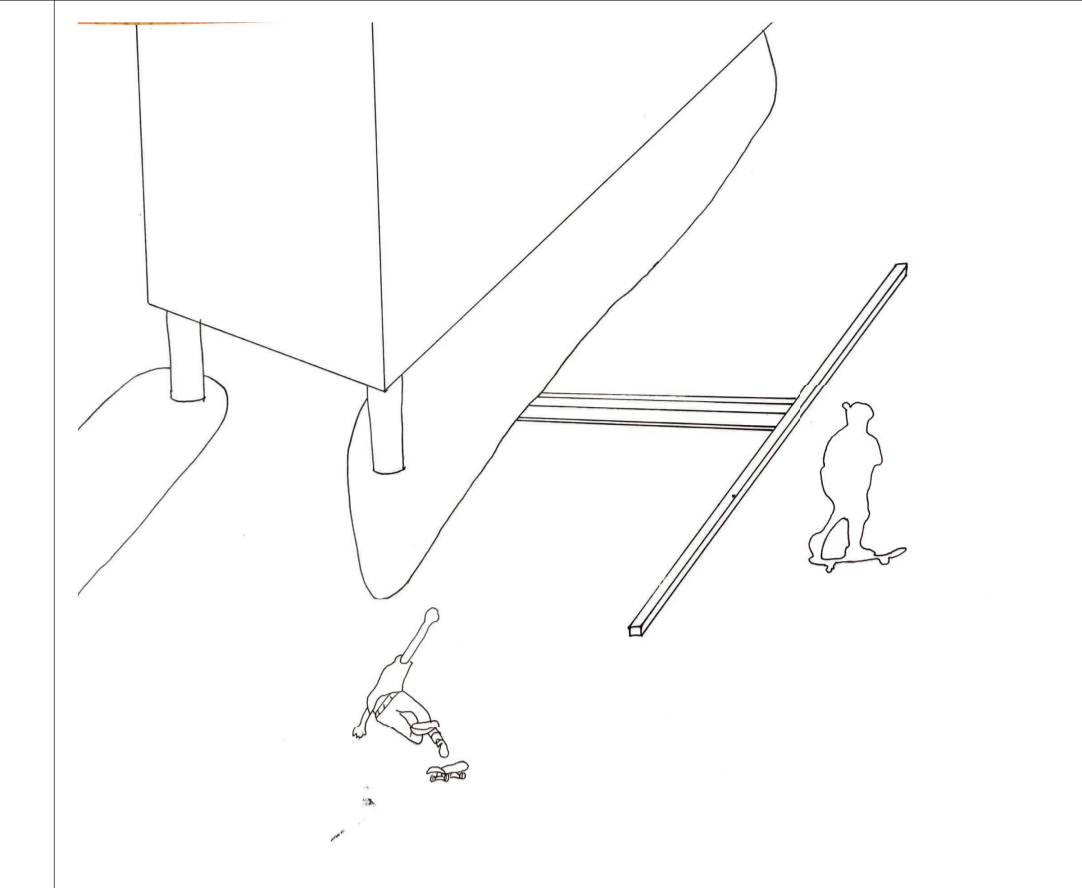
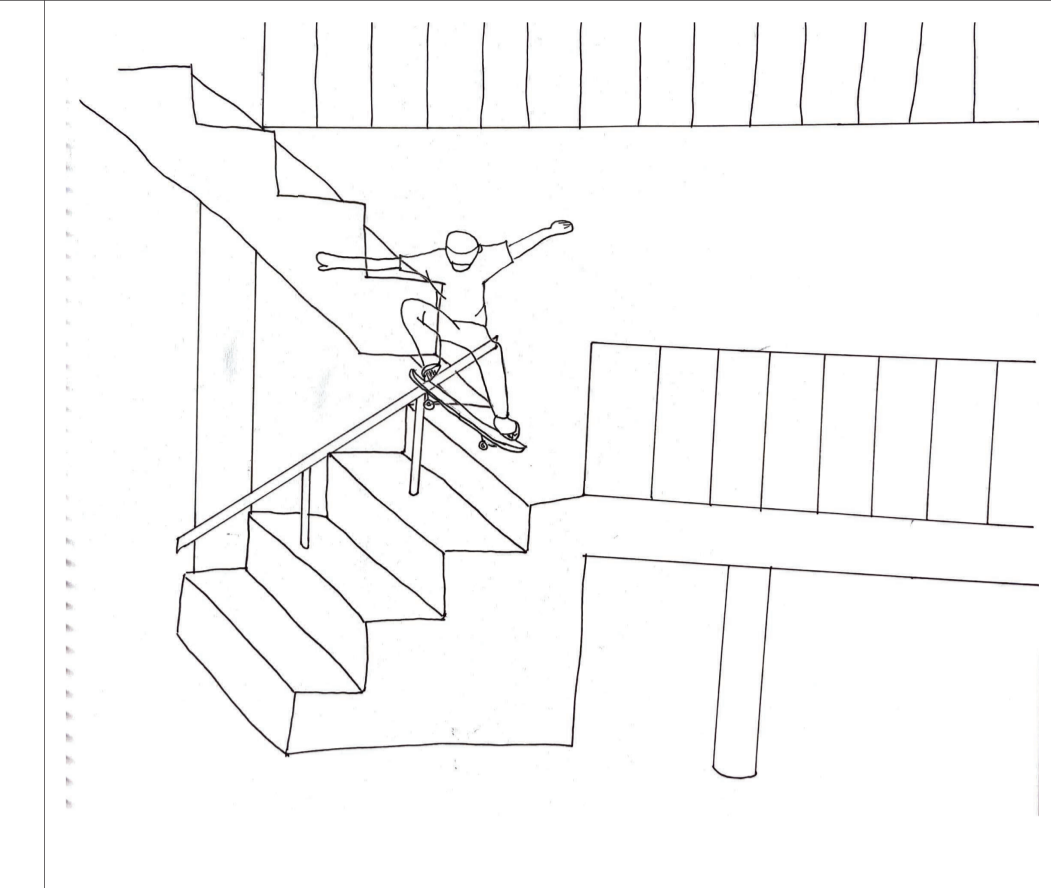
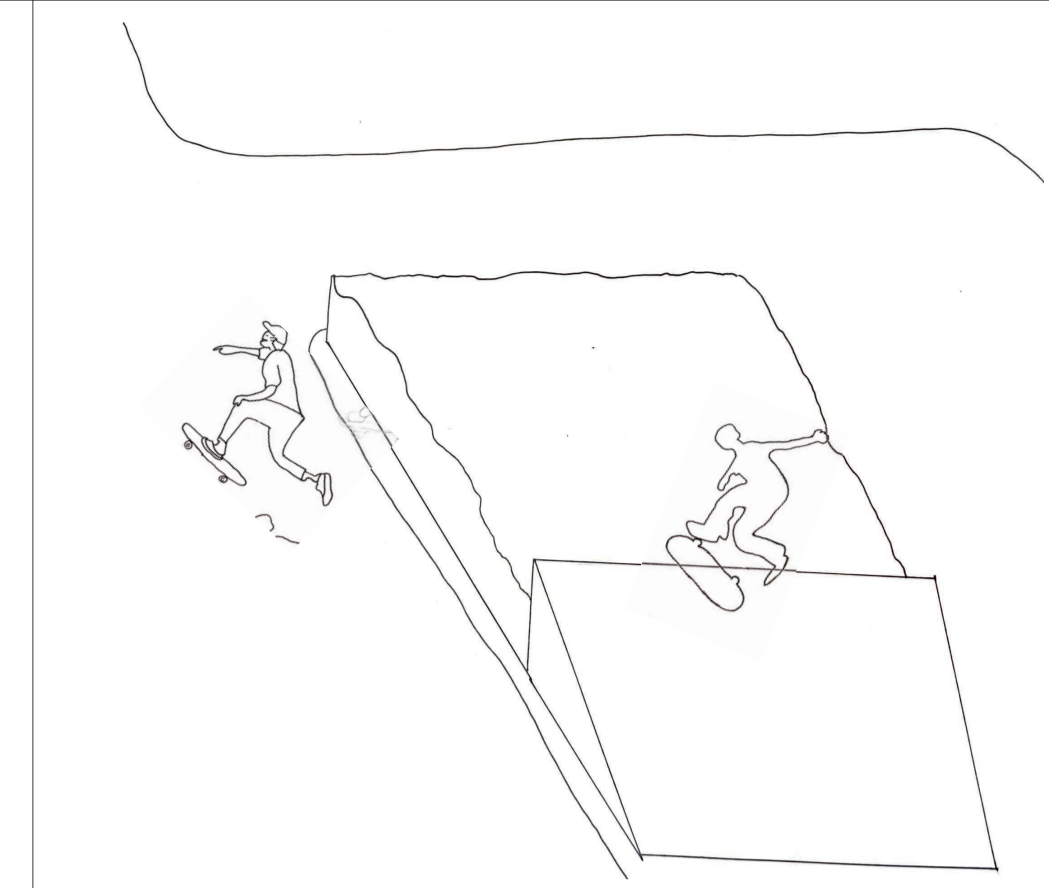
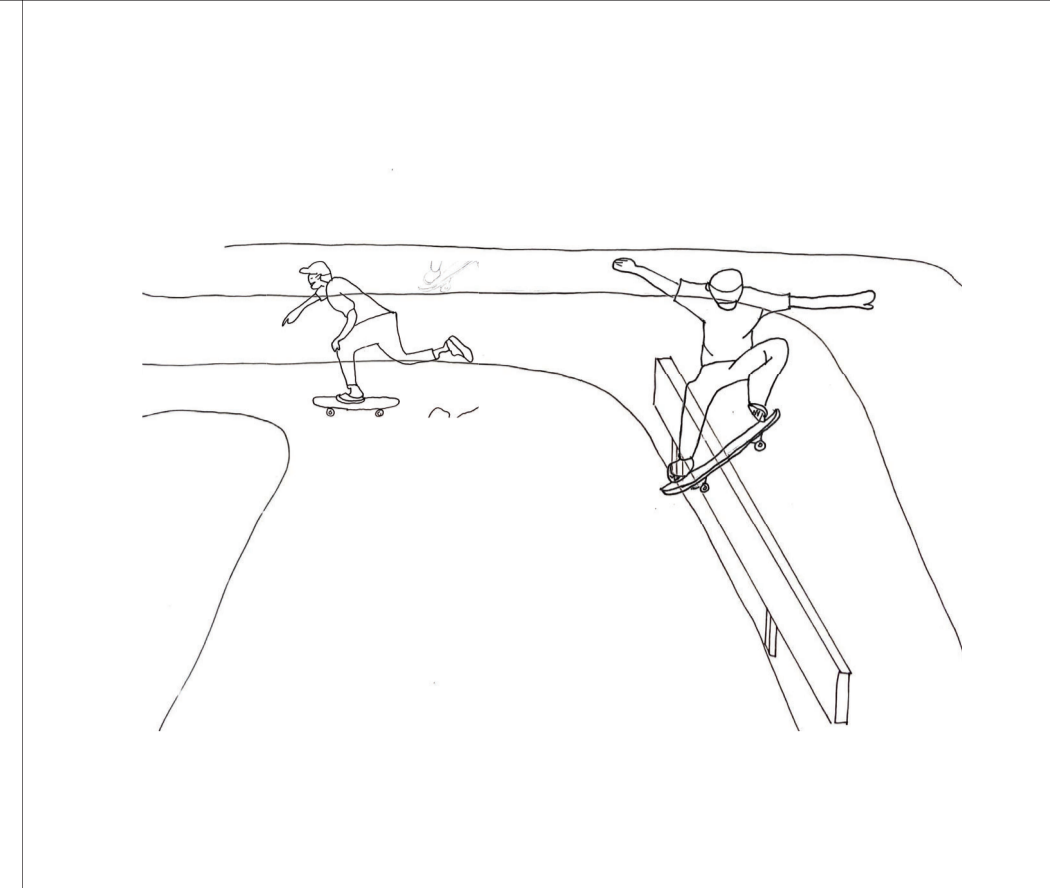
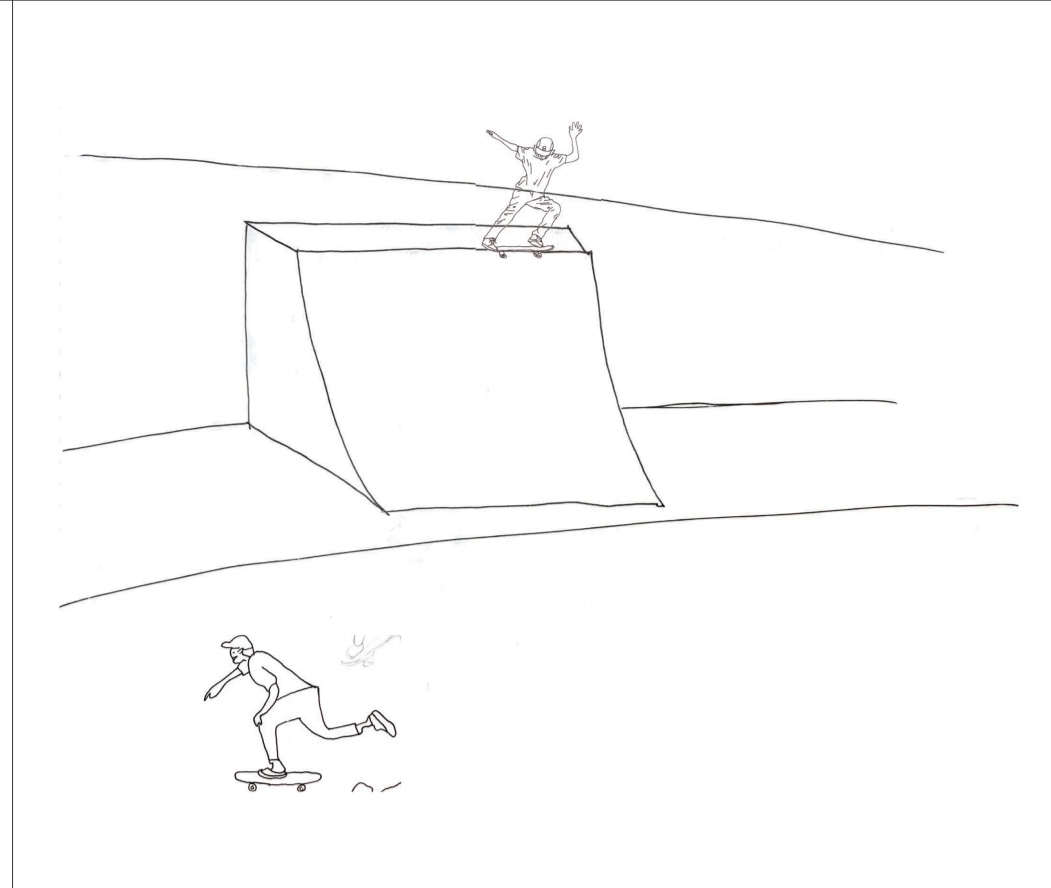
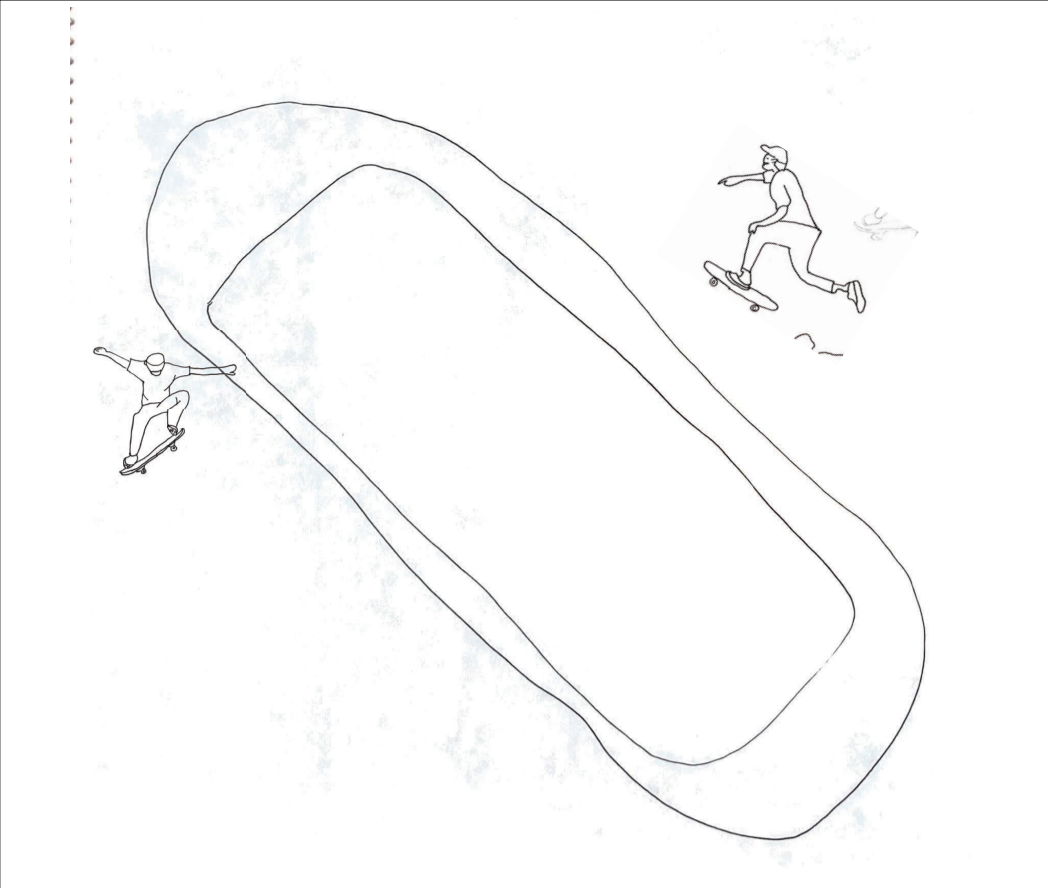
待合室の座れない人もいるので  
その近くにも生徒もスケートボーダーも喜びそうなのを設ける。



ベンチ or セクション（ボックス）  
近くに簡易な待合室があるが椅子が少ない。  
ベンチにも使えボックスも使える。







アイソメ図 1/300

